

第2学年道徳科学習指導案

公開授業②

日 時 令和7年11月18日（火）

児 童 2年1組 23名

指導者 佐藤 恵美

1 主題名 あたたかい心 内容項目 [B 親切, 思いやり]

2 教材名 「くりのみ」(出典:「生きる力2」日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) 内容項目について

本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目「B 親切・思いやり」の「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を受けて設定されたものである。これは、第3学年及び第4学年の「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」につながっていく。

集団生活において、自分のことばかり考えていたり、自分の思いばかり主張したりしては、よりよい人間関係を築くことはできない。人間は、困っている人がいたら助けてあげたい、親切にしたいという気持ちをもっている。しかし、自分のことで精一杯になり、周りのことに目を向けられる余裕がなかったり、自分の思いを優先させたり、自分の損得を考えてしまったりして行動に移せないことがある。

この時期の児童は、家族だけではなく、友達や学校の人々、家の周りの人々などとの関わりが少しずつ増えてくる時期にある。児童が、これからの生活の中でさまざまな人と関わり、よりよい人間関係を築いていくために、誰に対しても温かい心で接し、親切にすることが必要である。

そこで、相手の気持ちや置かれている状況を自分の事として考え、どのような行動をとるとよいのかを判断し、進んで温かい心で接し親切にしようとする心情を育てたいと考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、縦割り活動や学校行事、1年生との活動を通して、学級の友達と協力することに加え、他の学級や異学年との関わりが増えてきている。学級でも、困っている友達がいると優しく声をかけたり手伝ったりする姿も見られる。また、自分にできないことがあると声をかけて助けてもらうなど、学級の中で助け合う姿が見られるようになってきた。

その一方で、グループでの活動や遊びの場面では、自分の思いを通そうとするあまり、けんかになってしまうなど、相手のことを考えずに行動したり、協力して取り組むことができなかったりする場面も見られる。

(3) 指導観

本教材は、きつねとうさぎが登場し、展開する物語である。寒い北風の吹く日、友達のきつねとうさぎが原っぱでそれぞれ食べ物を探していた。きつねは、見つけたどんぐりをお腹いっぱい

食べた後、独り占めしようと隠し、帰り道で会ったうさぎに「何も見つからなかった。」と嘘をついてしまう。一方、うさぎは、食べ物が無いきつねを気の毒に思い、たった2つのくりのみの1つを分け与える。そんなうさぎの優しさに触れ、きつねが涙を流すという内容である。本教材では、うさぎの相手を思う優しい心が伝わってくる一方で、きつねの心の弱さにも共感できる内容である。きつねの心の弱さに共感しつつも、親切にすることの素晴らしさを感じ、思いやりをもって接することは相手の心を動かすことにもつながるということを実感させていきたい。

指導に当たっては、日常生活を想起させ、困ったときに親切にしてもらった経験やその時の気持ちなどを確認し、教材やねらいへの方向づけをする。また、親切にすることは大切だと分かっているとしても、その行為自体は難しいということを、自分の経験を振り返る活動の中で気付かせ、課題につなげたい。さらに、終末では親切にすることのよさについて、親切な行為をした側の気持ちと親切にしてもらった側の気持ちを考える時間を大切にする。そして両者の気持ちを結び付けることで、温かな思いについて考えを深めるとともに、両者の喜びにつながることに気付くようにしていきたい。

本校の研究主題に関わって、以下の手立てを講じる。

手立て1【対話を生み出すための工夫】については、児童の親切的な行動や気持ちに対するアンケートをとり、価値理解が分かるようにしてから考えさせていく。

手立て2【対話の充実を図るための工夫】については、中心発問の意図を明確にしたり、発言の真意を確かめるために理由を引き出したりするなどの問い返しを大切にする。特に、自分に引き付けて考えることや、なかなか実現することができない人間の弱さなどを引き出す問い返しを工夫し、対話を充実させていく。

また、きつねにくりのみを渡すうさぎになって役割演技を行い、思いを語らせる。涙を流したきつねの気持ちを考える際には、ペアでの話し合いを通して全員の対話の機会を確保する。さらに、そこでの話し合いを全体の対話につなげ、うさぎの優しさに触れたきつねの心の変容に深く寄り添わせる。心の葛藤や思いやりの心など、お互いの気持ちについて話し合うことで、きつねの涙の意味について深く考えさせ、対話を深めていく。

4 本時の指導

(1) ねらい

困っている人のために親切にしようとすることは、みんなの心が温かくなるなど、とてもすてきなことであることを理解し、互いに助け合っていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動（○発問 ●中心発問） ・児童の反応	指導上の留意点（・） ◎評価
導入 6分	1 自分の経験を振り返る。 ○誰かに親切にしたりしてもらったりしたことがありますか。 ・転んで泣いている友達を、保健室に連れて行ってあげた。 ・物を落とした時に拾ってあげた。 2 本時の課題を確認する。 しんせつにするとはどういうことか考えよう。	・自分の経験を振り返りながら、親切な行為をしたりしてもらったりした時の気持ちを自由に発言できるようにする。 【対話を生み出すための工夫】 ・事前にとったアンケートの結果を示し、教材やねらいの方向づけをする。 ・本時では、「親切」について考えていくことを伝え、課題意識をもたせる。
展開 32分	3 教材文を読む。 4 主人公の行動や気持ちについて考える。 ①おなかいっぱいどんぐりを食べ、残りを隠したきつねは、どんな気持ちだったでしょう。 ・誰にもあげたくない。 ・あげたら自分の分がなくなっちゃう。 ②きつねの話を聞いたうさぎは、どんな気持ちで栗の実を差し出したのでしょうか。 ・やっと見つけたし2つしかないからあげたくないな。 ・きつねさん、1つも見つけられなくてかわいそう。 ・どうしよう。 ③涙を流したきつねは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ○悲しくて泣いているのかなあ。 ・何で自分はあげられなかったのかなあ。 ・ごめんね。あげればよかった。 ・うさぎさんは、困っているぼくのことを考えてくれた。 ・うさぎさんだって2つしか見つけられなかったのにくれるなんて、なんて優しいんだろう。 ・うそをついてごめんなさい。	・朗読後、場面絵を提示しながら、あらすじを確認し、うさぎときつねを対比してとらえておく。 ・冬は食べ物が少なくなることを伝え、蓄えておきたいきつねの気持ちに共感できるようにする。 ・きつねにくりのみを渡すうさぎになって、役割演技を行い、思いを語らせるようにする。 【対話の充実を図るための工夫】 ・役割演技を入れて、うさぎの気持ちを考えさせる。 ・ペアでの話し合いを通して、全員の対話の機会とし、考えを深められるようにする。 ◎親切にしたりされたりするとどんな気持ちになるか考えているか。 【ノート・発言】

終 末 7 分	5 本時の学習をまとめる。 ○困っている人のために、親切にしている人を見たことがありますか。見ていて、どんな気持ちになりましたか。 ・温かい気持ちになった。 ・いいなあと思った。 ・自分も親切にしてみたいなあと思った。 ○今日の学習で学んだことやこれからの生活に生かしたいと思ったことを書きましよう。 6 今日の学習を振り返る。 ○今日の学習を振り返りましよう。	・アンケートに立ち返り、自己を振り返る視点を与える。 ・書く活動を通して、一人一人が道徳的価値の自覚を深められようにする。 ・思い当たらない児童には、しようと思ったけれどできなかったことを振り返らせる。
----------------------------	---	---

(3) 評価の観点

困っている人を温かい心でいたり、助け合おうとすることの大切さについて考えを深めている。

【ノート・発言】

(4) 板書計画

